

六七日

むなぬか

「戒名」と呼ばれることがあります、浄土真宗では「法名」といいます。

戒名とは、数多くの厳しい戒律を守つて仏門に入ったものに与えられる名前です。たとえば在家人の五戒——殺生しない・盜みをしない・不正な性行為をしない・嘘をつかない・お酒を飲まない——の五つの戒律です。これが出家者になると男性で二百五十戒、女性で三百四

法名と位牌



十八戒にものぼります。在家者の五戒すら満足に守ることのできない私たち凡夫は、ひたすら阿弥陀如来の救いを信じ、お念佛をとなえることでお淨土に救われ、仏さまと等しいさとりを得るのだと、阿彌陀如来の信心を説かれたのが親鸞聖人でした。ですから、浄土真宗では戒名といわず、法名と呼んでいます。法名に「釈」とあるのは、仏弟子の一人としてお釈迦さまのお仲間に加えていただくということをあらわしています。

なお、浄土真宗では四十九日の間の白木の位牌のみ慣習上、用いることもありますが、その後、他宗のようにうるし塗りの位牌は用いません。亡き人の法名や俗名、死亡年月日などは過去帳に記載し、命日や年回にあたる日に、過去帳の故人の頁を開けてお仏壇に安置しています。